

地域ICTクラブ名称	十勝EdTechコンソーシアム
協議会等名称(代表団体名)	十勝EdTechコンソーシアム(代表団体:学校法人帯広コア学園)
実施地域	北海道十勝地区
実証概要	北海道十勝地区は我が国有数の農業・牧畜地域であり、収入も比較的豊かにも関わらず、ICT・IoTの情報教育環境が遅れている。これを解決するには、家庭環境・地域の教育機関・地元企業をあげて将来の後継者である子どもたちの情報教育環境・地域コミュニティを構築する必要が急務である。特に女性の活用については、大都市に比べ遅れており、子ども時代からキャリアプランが作れるようスキルを身に着ける必要がある。 当プロジェクトの目的は、CoderDojoの例を参考に、子どもたちが自由に集い、自由に学べる環境を構築することである。今後増えてゆくそれぞれのクラブが単独運営をするのではなく、各地のクラブをネットワーク化することで、サポート団体と共に中期的に低コストでの運営体制を確立する。

## 取組のポイント!

- ① 子どもたちが、気軽に、自由に学べる環境を提供
- ② 触れて、組み立て、仕組みを学ぶ
- ③ 特定のカリキュラムに縛られず、自主的に学ぶ姿勢を重視

## 取組の様子

児童館のように、気兼ねなく参加できます



Raspberry Piを使って、IoTプログラミングに  
チャレンジ



IT業界で活躍する方々を招き、プログラミング  
とテクノロジーについてより深く学びます



地域ICTクラブ名称	北海道ICTクラブ@北海道大学、北海道ICTクラブ@琴似工業高校、北海道ICTクラブ@岩見沢高等養護学校
協議会等名称(代表団体名)	協議会名:北海道ICT人材育成協議会 (代表団体:一般社団法人オープン教育研究所)
実施地域	札幌市及び岩見沢市
実証概要	北海道札幌市を拠点に近隣地域において、北海道におけるICT人材の育成を図る教育機会を提供する。地域を支えるICT技術に興味を持つ若手人材を育成するため、ウェブサービスを構築する基礎的な知識と技術を学べる教育プログラムを開発する。本講座を高校生等を対象として、障害者を交えたインクルーシブ教育の実施を含め複数の地域ICTクラブにより展開する。 持続的な推進のために、道内の大学や企業が参加する「北海道ICT人材育成コンソーシアム」を組織する。

### 取組のポイント！

- ① 北海道におけるICT人材の育成を狙った教育プログラム開発
- ② 産官学連携による「Webデザイン」と「デジタル表現」の知識と技術を学ぶ講座の開発と大学生メンターの育成
- ③ 高等養護学校におけるインクルーシブ教育の実施

### 取組の様子

メンター研修の様子



岩見沢高等養護学校における体験会の様子



地域ICTクラブ名称	三戸地方未来塾
協議会等名称(代表団体名)	協議会名:三戸地方未来塾(代表団体:三戸町、主な協議会構成員:タイムソフト合同会社、未来塾サポーター会、三戸町教育委員会、青森県学校給食コンピュータ研究会、日本郵便株式会社、NTT東日本、ドコモCS東北他)
実施地域	青森県三戸郡(三戸町を中心とした隣接町村)
実証概要	将来、子どもたちがICTを活用して自己実現できるように、未来の産業や社会を、子どもたちと地域の人々が一緒に体験できる「未来体験講座」と、大きく膨らむ夢を叶えるための「未来型スキル(プログラミング)」をみんなで楽しく学べる「ハイブリット型ICTクラブ」の実証をおこなう。

## 取組のポイント!

- ① わくわくワークショップ:夏休み期間を有効活用し楽しくICTに親しむ活動
- ② 未来体験講座:未来社会(ICT化)のイメージ体験講座
- ③ 「明るい農村」プロジェクト:地域ぐるみで農山村型ICTクラブの活動推進

## 取組の様子

夏休みに企画したワークショップに参加の子供たち



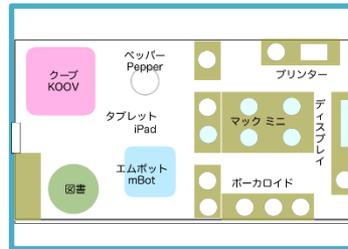
未来体験講座でmBotを使って自動運転車に挑戦



KOOVコーナーで「明るい農村」の遊園地をつくる



三戸地方未来塾の配置図  
自分の好きなものを学ぶ



地域性を生かした「明るい農村」をICTで実現する



地域ICTクラブ名称	前橋地域ICTクラブ、高崎地域ICTクラブ、太田・桐生地域ICTクラブ
協議会等名称(代表団体名)	ぐんまプログラミング教育推進協議会(代表団体:株式会社上毛新聞社、主な協議会構成員:
実施地域	前橋市、高崎市、太田市、桐生市を中心とする群馬県全域
実証概要	<p>①大学拠点モデルとして、群馬県内でのプログラミング人材、プログラミング指導人材の継続的な育成 メンターとして県内ICT企業の社員ならびにOB、プログラミングに関心の高い学生、学校教諭を目指す学生 を活用し、メンター同士の学び合い、交流を促進すると同時に次世代のプログラミング人材の育成を目指す。</p> <p>②ぐんまこどもIT検定など、児童生徒のプログラミング教育の関心や理解度を深める 継続的な講座の実施により実証 地域の児童生徒のプログラミング教育に対する理解・関心の程度を把握する。</p> <p>③発達障害のある児童生徒に対するプログラミング教育の機会の創出 発達障害のある児童生徒への指導経験を持つメンターを活用し、程度に合わせて集団・個別でプログラミング教育 に触れる機会を提供する。</p> <p>④ぐんまプログラミングアワードとの連携によるインセンティブの有用性の実証 同事業との積極的な連携を図り、地域に根差した持続的なプログラミング教育推進活動としての発展を図る。</p>

## 取組のポイント!

- ①大学・専門学校拠点モデルとして、既存の施設・設備を利用した講座を展開。
- ②発達障害のある児童生徒を対象とした特別講座を実施、プログラミング教育に触れる機会を幅広く提供。
- ③プログラミング学習のインセンティブとして、ぐんまこどもIT検定の実施を予定。

## 取組の様子

8・17 共愛学園前橋国際大学



9・22 中央情報大学校



10・13 特別編/群馬大学桐生キャンパス



講座実施回数19回、  
10月末時点で延べ325人が参加

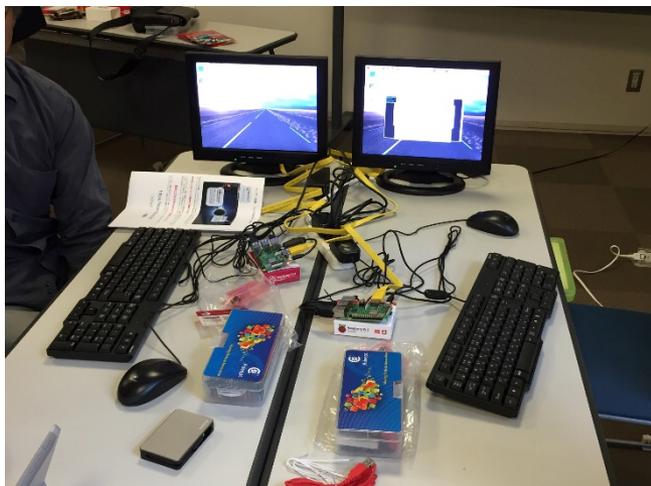
地域ICTクラブ名称	こどものミライクラブ
協議会等名称(代表団体名)	こどものミライ協議会(株式会社D2C)
実施地域	東京都大田区、埼玉県狭山市
実証概要	<p>Coder Dojoなどの低価格でプログラミングが学べる環境のない地域において、プログラミングに興味のある、またはすでに学習している児童に向けたプログラミングスキルの向上及び活用を学ぶことのできる地域ICTクラブを設立する。</p> <p>子どもに向けたプログラミング教育の必要性を感じていながら、なかなか着手できない自治体にとって、今回の公募により民間と自治体が協力しあって地域にICTクラブを設立できるのは絶好のチャンスである。2011年から中高生向けのアプリコンテストを開催し、平成28年度の実証事業にも参加した株式会社D2Cと、子どもにおけるプログラミングによる学習効果・能力開発の研究を手がけ、子ども向けのプログラミングワークショップの実施経験も豊富な早稲田大学が中心となって、地域に根ざしたICTクラブを企画運営していく。今年度の2地域は、共に「モノづくり」を標榜しているため、テーマを「モノづくりと地域後援」と設定し、次の3つを活動の柱に設定する。</p> <p>1. IoT・ICT・プログラミング学習 2. モノづくり体験学習 3. 交流・発表</p> <p>また、地域ICTクラブを立ち上げ運用するだけでなく、児童がプログラミングのスキルを磨きながら地域に貢献できるようになっていき、その過程を地域と共有することで、地域から応援されるICTクラブの在り方を模索し課題を検証する。今回の検証から得られた地域ICTクラブの構築・運用のためのノウハウは、同様の課題を抱える多くの地域が地域ICTクラブを設立する際に役立つものになると考えられるため、積極的に公開提供していく。</p>

## 取組のポイント！

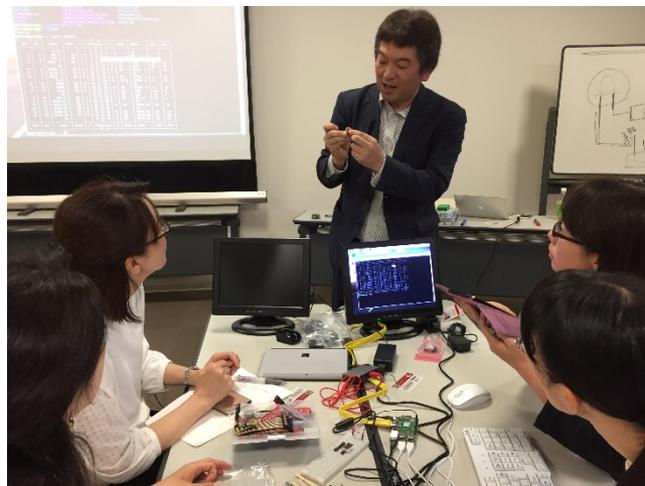
- ① Rubric ProEEs(ルーブリック)を導入しカリキュラムを設計することで明確な学習目標を設定可能
- ② 児童ごとに学習効果进行评估し継続学習意欲を喚起するよう働きかけることが可能
- ③ 継続運営に欠かせないカリキュラムの振り返りが容易

## 取組の様子

狭山市における第二回メンター講座の様子(機材)



狭山市における第二回メンター講座の様子(センサーについて説明する)



地域ICTクラブ名称	野火止ICTくらぶ、菅沢ICTくらぶ、本多ICTくらぶ、新塚ICTくらぶ、東北ICTくらぶ
協議会等名称(代表団体名)	新座IoTの学び推進協議会(代表団体:特定非営利活動法人新座子育てネットワーク、主な協議会構成員:特定非営利活動法人新座子育てネットワーク、新座市教育委員会、十文字学園女子大学、埼玉県立新座総合技術高校、サンケン電気株式会社、福祉の里児童センター、新座市児童センター)
実施地域	埼玉県新座市
実証概要	市内児童センター2館を指定管理運営し、子どもたちに科学遊び「あそびサイエンス」を仕掛けてきたNPO法人新座子育てネットワークが代表団体となり、教育委員会、地元大学・高校、地元部品メーカーとともに市民メンターを新座市内5地域で育成し、市内5地区にICTくらぶを開設して、身近な地域で子どもたちのプログラミング活動の場づくりに取り組めます。

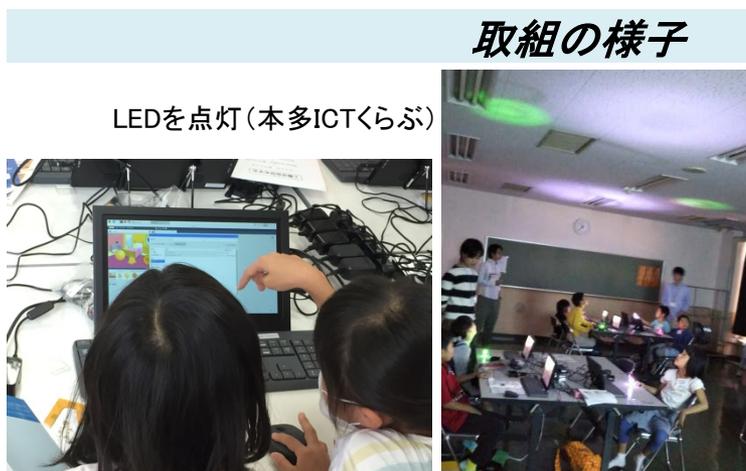
## 取組のポイント!

- ① 子どもたちに身近な公民館や児童センターを会場に、市内5カ所でクラブを開設
- ② 市内全小学校の低学年児童と保護者に向けた広報活動で、募集1週間でクラブは全日程満席
- ③ 大きな反響を受けて、定員増したクラブもあり、今年度は延べ348児童が参加予定 10/24現在、延べ70名が参加
- ④ 協議会団体の協力で、市民・大学生・高校生と、若者から親世代にわたってメンターが誕生 10/24現在、74名を養成
- ⑤ メンター対象を、本事業に関心のある一般市民、と低めに設定したことで、幅広い層の参加が実現
- ⑥ メンター養成において、専用webサイトで動画や資料の提供を行い事前学習ができるよう工夫した
- ⑦ 養成したメンターは、すでに各地のICTくらぶで活躍中



説明を聞く子どもたち  
(野火止ICTくらぶ)

オリジナル作品作り  
(野火止ICTくらぶ)



LEDを点灯(本多ICTくらぶ)

## 取組の様子

メンター養成講座  
Code Dojoを主宰する  
ゲスト講師登壇

作成した動画DVD

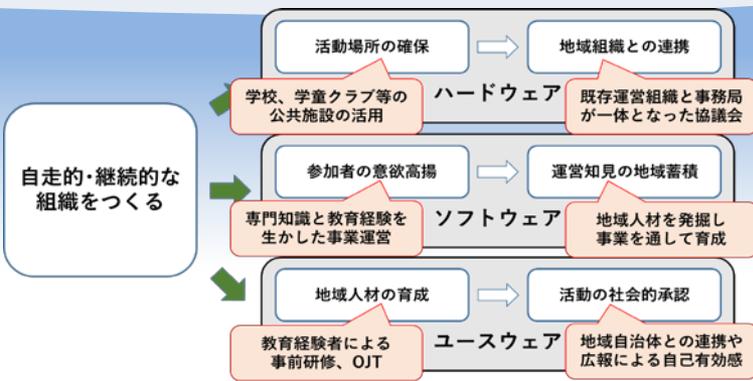


メンター養成講座の様子

地域ICTクラブ名称	ヒラメキICTクラブ
協議会等名称(代表団体名)	ヒラメキICTクラブ (代表団体：全国中学校理科教育研究会支援センター 高畠勇二、龍崎邦雄、大橋信介、前田辰雄)
実施地域	神奈川県横浜市、東京都品川区、東京都武蔵野市、東京都八王子市における合計6拠点で講座を実施
実証概要	地域コミュニティと支援団体による拠点ごとの特性を踏まえた協議会を組織する参加者の「ヒラメキ」を現実空間で動く「形」として表現するためのプログラミング活動講座を展開する基礎レベルを5拠点で行い、その発展として大学の施設を活用した応用レベル講座を実施する

## 取組のポイント！

- ① 拠点の特性を踏まえた多様な事業運営形態の試行
- ② 協議会が持つ教育現場の経験とネットワークを活用した講座運営
- ③ ICT技術を素材として、参加者の「ヒラメキ」を「形」にするための講座内容



## 取組の様子

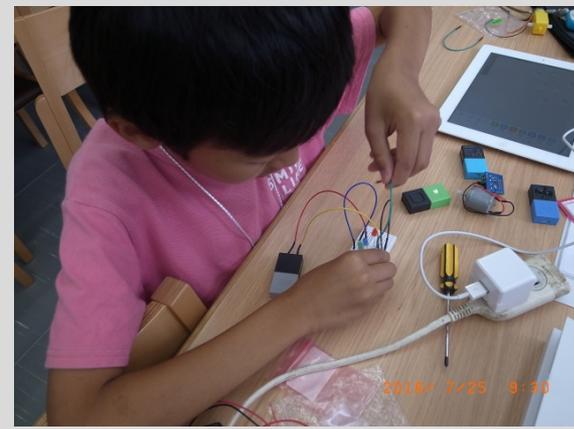
拠点保護者による運営サポート



経験を生かしたメンタリング



参加者の意欲的な活動



地域ICTクラブ名称	デジタル寺子屋@つづき・中川、@つづき・加賀原、@つづき・アリオソ(発達障害児童のための)
協議会等名称(代表団体名)	つづきIoT学習推進協議会 (代表団体: NPO法人I Loveつづき、NPOブロードバンドスクール協会、日本マイクロソフト、PCN秋葉原、ONE、アリオソ学習教室、イクミンズ、一社横浜もの・ひと・まちづくり、NPO法人テレワーク横浜)
実施地域	神奈川県横浜市都筑区
実証概要	シニア教える楽しい電子工作をキーワードに女の子も親しめるプログラミングとして、星や花が光る飾りを創り、電腦七夕祭りや電腦ひな祭りを開催。国内外のプログラミングを学ぶ児童、支援者たちと交流しながらICTを活用して地域、広域が連携する情報コミュニティを形成する。シニアだけでなく、保護者や地域の施設スタッフにもサポーターになっていただき、継続できるしくみづくりを検討中。

### 取組のポイント!

- ① ICTクラブ(デジタル寺子屋)でシニアが小学生に教えるクラブ活動。事務局のあるコミュニティカフェ(中川)、自治会子ども会中心(加賀原)、コミュニティハウス(つづきの丘)、工場の中にあるコミュニティカフェDEN(東山田)で実証実験する。異なるコミュニティでの継続方法について検討中。
- ② 発達障害のこどもたちのためのプログラミングについて試行錯誤しながら実施している。テキストづくりを日頃発達障害向けの学習塾をされている先生たちと整備しながら行っている。
- ③ 女の子も楽しめる電子工作をテーマに、メンター、サポーター講座を行い、講座講師向けのテキストも整備中。

### 取組の様子

デジタル寺子屋@シェアリーカフェ  
放課後の時間16時～18時で実験中です。



メンター、サポーター講座受講者が大盛況で午  
前午後に分けて実施することに。



地域のこどもたちがたくさん集まる寺子屋。  
予想どおり女の子がたくさん集まっています



地域ICTクラブ名称	かながわICTクラブ
協議会等名称(代表団体名)	協議会名: かながわICTクラブ運営協議会 (代表団体: 株式会社教育)
実施地域	神奈川県内3か所(横浜市内2か所、南梨がら市内1か所)
実証概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの興味関心や障害の特性にあわせた多様な16講座</li> <li>スキルバッチ制度によるメンター育成カリキュラム</li> <li>ICTクラブの継続運用におけるビジネスモデルの検証</li> </ol> <p>11月の横浜ガジェット祭りでブースエリアを開設。2月に大学生、高校生、NPOなどとチームをつくり子どもたちが先生になり地域の人教えるワークショップを開催。</p>

## 取組のポイント!

- ① 興味関心や障害の特性にあわせ、アートや3Dプリンター、音楽なども含め多様な16以上の講座を用意している
- ② メンターの育成とスキル証明のためにスキルバッチ制度を導入し、得意な分野を活かした運営を行っている
- ③ 県との連携で高校生メンターを多用。ファブラボ、こども食堂での開催など継続性、地域活性化を推進している。

## 取組の様子

多様なプログラムの中でも特徴的な講座

アンプラグド型のジェスチャープログラミングは大人も子どもも大盛り上がりします。



高校生メンターの活躍

生徒から、高校生メンターは話しやすい、相談しやすいとの声が上がっています。



特徴的な会場で実施

こども食堂の「みんなの食場」では健康的で美味しい食事を食べられます(有料です)



地域ICTクラブ名称	ブースト団西之門支部、ブースト団JBN支部、ブースト団川中島支部（ほか随時設立準備中）
協議会等名称(代表団体名)	協議会名：長野ブートストラップ少年団運営協議会 (代表団体：株式会社アソビズム 主な協議会構成員：長野市、長野市教育委員会、長野市ICT産業協議会、信州大学教育学部 村松研究室)
実施地域	長野県 長野市
実証概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人と子供が積極的に教えあえる仕組みを作り、メンターに頼らず、サポーターや参加児童が主体的に活動して、誰でも指導者となる組織、ブートストラップ少年団(略称ブースト団)を作る。</li> <li>・既存プログラミング教室や学校からの協力で講座を実施したり、ICTワークショップ参加したら少年団に持ち帰って続きができる。というような地域コミュニティにして、将来的に産学官でICT共育を盛り上げていく仕組みの基礎にする。</li> <li>・WEBサイトを整備し、運営のクラウド化で事務コストを減らす。来年度以降は低コストで自立的に運営できる体制を作り、他市町村への横展開も目指す。</li> </ul>

## ブースト団のポイント



1. 専門知識のあるメンター不要！プログラム未経験でもICTクラブ「ブースト団」を立ち上げられる！
2. 民間の教室や体験講座を活用！地域にあるものを最大限活かして無理なく継続して提供できる！
3. 勉強をするのではなく、子供たちがプログラミングで遊び、自発的に学び合う場所をつくる！

## 活動の内容

ブートストラップ少年団WEBサイト: <https://bootstrap.nagano.jp>  
未来工作ゼミWEBサイト: <https://www.futurecraft.jp/>



IT企業  
プログラミングで  
働く場所

大学・高専  
さらに専門知識を磨く場所

民間のプログラミング教室  
プログラミングを学ぶ場所

ブースト団  
子どもたちが集まって遊び  
学び合う場所

子供に混ざってのサポーター研修

大人と子供の教え合い(10/14 西之門支部 講座)

ブースト団の位置づけと狙い

# 11【モノづくり×スマートインクルージョン】

③障害者のICT  
習得支援連携

資料2-1  
取組概要

地域ICTクラブ名称	地域ICTクラブ(大聖寺)、地域ICTクラブ(片山津)、地域ICTクラブ(山中)
協議会等名称(代表団体名)	加賀市地域ICTクラブ推進協議会 (代表団体:加賀市、主な協議会構成員:スマート加賀市IoT推進協議会、NPO法人みんなのコード、一般社団法人スマートインクルージョン推進機構、株式会社インテトラス、EdelWorks、合同会社テクノアルタエンジン)
実施地域	石川県加賀市
実証概要	属性の異なる市内3箇所(イノベーションセンター・児童センター・地区会館)に地域ICTクラブを設置し、同一テーマを掲げ、継続的に活動していくための体制や環境について検証を行う。 また、うち1箇所(イノベーションセンター)については、障害児者を積極的に受け入れるクラブとして、その受け入れ体制を整え、障害の特性に応じた取組・講座内容についても検証を行う。

## 取組のポイント!

- ① スマートインクルージョンの観点から障害のある人も含め全ての人と一緒にICTを学び合える環境を目指す
- ② イノベーションセンターに発達障害児者支援員の配置
- ③ 参加児童等によるモノづくりイベント「NT加賀2018」への作品出展

## 取組の様子

子どもから85歳のおじいちゃんまで  
多世代でプログラミング



聴覚障害のある子も一緒にプログラミング



親子で電子基盤にはんだ付け



プロジェクターだけでなく  
手元に資料を用意

地域ICTクラブ名称	Hana道場(鯖江市)、福井プログラミングキッズクラブ(福井市)、PCN武生(越前市)、さかいプログラミングクラブ(坂井市)、NSクラブ(福井市)、勝山クラブ(勝山市)新田塚クラブ(福井市)、PCN福大附属(福井市)、スピリッツ・スマイル(福井市)
協議会等名称(代表団体名)	協議会名: 福井県子どもプログラミング協議会 (代表団体: 一般社団法人 福井県情報システム工業会、主な協議会 構成員: 福井県産業労働部、福井新聞、福井大学、福井高専、PCN)
実施地域	福井県
実証概要	地域ICTクラブ創設者向け、講習・説明会の開催(県内6箇所) 越前がにロボコンに向けた、地域ICTクラブ講習実施(各所3回) 越前がにロボコンの開催・運営 地域ICTクラブ、大会後フォローアップと全国PCN子どもプロコン案内

## 取組のポイント!

- ① 格安子どもパソコンIchigoJamとロボットキットとオープンな教材を使って取り組みやすい
- ② 各地域ICTクラブ間対抗で盛り上がる! 県大会に相当するご当地ロボコン「越前がにロボコン」
- ③ 県大会の次は、全国大会へチャレンジ! ふりかえり会と「PCN子どもプロコン」への誘導

## 取組の様子

カニロボづくり



IchigoJamでプログラミング



模擬コースを使ってトライ&エラー



地域ICTクラブ名称	かわねICTクラブ
協議会等名称(代表団体名)	協議会名:川根本町地域ICTクラブ推進協議会(代表団体:静岡県榛原郡川根本町、主な協議会構成員:東海ブロードバンドサービス株式会社)
実施地域	静岡県榛原郡川根本町
実証概要	ICTを学ぶ環境に恵まれていない中山間地域において、児童生徒が自立的・継続的・発展的にプログラミング等のICT/IoTを地域の高齢者等と一緒に楽しく学び合う仕組みを構築し、条件不利地域におけるIT人材育成のモデル事業となるよう実証を進める。

## 取組のポイント!

- ① 地域の高齢者、IT企業の社員、NPO法人関係者、教員、大学生、町職員など様々な属性、年齢層のメンターの参画
- ② 自由な雰囲気の中で楽しく学べる環境づくり
- ③ クラブ登録者以外の方も気軽に参加できる場の提供(町のイベントに合わせて誰でも参加できるオープン講座を開催)
- ④ 参加者の成熟度に応じたきめ細やかな指導・助言

## 取組の様子

メンター講習でロボット操作を学ぶ



高齢者のメンターも熱心に指導(南部会場)



子どもだけでなく保護者も熱中(北部会場)



# 14【サテライトオフィスを拠点に多世代交流】

⑧離島連携等  
の遠隔教育

資料2-1  
取組概要

地域ICTクラブ名称	たつたクラブ
協議会等名称(代表団体名)	協議会名:三郷町ICT学び推進協議会 (代表団体:奈良県三郷町、主な協議会構成員:株式会社ケーケーシー情報システム、三郷町教育委員会、奈良学園大学、CoderDojo三郷)
実施地域	奈良県三郷町
実証概要	三郷町を中心として各関連組織間の連携を図り、現状の課題を解決して誰しもが参加できる地域ICTクラブを創設するために「メンター育成基盤」と「活動拠点の拡大」に取り組む。

## 取組のポイント!

- ① 大学生・保護者・サテライトオフィス利用者がメンターとして活躍
- ② 小学校での放課後教室では、1回目82名・2回目90名と参加申込が殺到
- ③ 12月に奈良県野迫川村へ遠隔教室を開催予定

## 取組の様子

ロボットプログラミング・8月25日実施写真



参加児童数66名  
メンター38名 保護者38名

CoderDojo三郷・9月22日実施写真



参加児童数25名  
メンター19名 保護者14名

中野塾・10月7日実施



参加者数14名

# 15【クラブ活動を通じた商店街の活性化】

⑦地元企業や商店街等  
による街作り・活性化

資料2-1  
取組概要

地域ICTクラブ名称	地域ICTクラブ
協議会等名称(代表団体名)	協議会名:MIHARAプログラミング教育推進協議会 (代表団体:RoFrEC、主な協議会構成員:三原市、シャープ(株)等)
実施地域	広島県三原市
実証概要	MIHARAプログラミング教育推進協議会は、三原を「世界のIT・スタートアップ集積地域」とするために、プログラミング教育のメンター育成事業を行う。三原は、小早川隆景公の時代の城下町、重化学工業の工場地帯として栄えたが、本事業によって、第四次産業革命時代のMIHARAをつくる歴史的一歩を踏み出す。すなわち、サービス、流通、小売り、製造、建設等あらゆる分野や事業領域で、IoTやICT等の新規事業が次々と生まれる世界のMIHARAビジョンに向けた仕組みづくりの実証を行う。本年度は、新たなサービスを創出するために、コミュニケーションロボットを三原市内のホテルや店舗などに設置する具体的な目標設定に向かって、三原発のITの学びのモデルをつくり、メンター育成を行う。

## 取組のポイント!

- ① 約30名の熱意あふれるメンター(徳島県、愛媛県、兵庫県から越境の参加者4名含む)
- ② 特別支援級等の小・中学生を対象とするキッズブロッサム講座の開催
- ③ コミュニケーションロボットを三原市内に設置するプロジェクトベースラーニング



MIHARAプログラミング教育推進協議会

1分30秒にまとめたVTRです。  
ぜひご覧ください。

## 取組の様子



メンターの集合写真(松田孝先生を講師として迎えた研修会で撮影)



メンター勉強会の様子(研修会に加え、任意参加の勉強会を開催)



講座の様子(特別支援学級等の小中学生対象の講座)



ロボホンをつかう講座の様子(交通安全教育とかけあわせた内容実施)

地域ICTクラブ名称	MOCKUP ODA(モックアップ小田)、MOCKUP UCHIKO(モックアップ内子)
協議会等名称(代表団体名)	協議会名:モックアップ内子協議会 (代表団体:株式会社武田林業、協力団体:内子町)
実施地域	愛媛県内子町
実証概要	<b>1. 次世代を担う児童生徒を主なターゲットとした【木育 × プログラミング教育】の実現</b> <b>2. 中山間地域で国産木材を活用した地域ICTクラブのMockup(プロトタイプ)形成</b> 林業地である内子町の未利用資源(木材)と地域のデジタルファブリケーション環境を活用して、愛媛県内のICT・IoT教育者と協力し、プログラミング教育ができる学び場を整備する。講座を開きそのなかで木工のIoTプロダクトを製作する。地域産業の林業や木材に触れ、プログラミング等のICTを楽しく学び合う、中山間地域ならではの地域ICTクラブを形成・実証する。

## 取組のポイント!

- ① 木育×プログラミング教育。国産木材にふれながら学ぶプログラミング教室。
- ② 「中山間地域」で実現するプログラミング教育。国土の7割を占める中山間地域へ展開可能。
- ③ 林業機械やドローンにふれて地域産業「林業」への関心を高める。

## 取組の様子

スクラッチで森林伐採ゲームをつくる児童



地域産業「林業」にふれる課外授業



木工ロボットを制作! プログラミングで動かす



# 17【豊かな未来を作る、佐賀の次世代エンジニアの育成】

⑦地元企業や商店街等による街作り・活性化

資料2-1  
取組概要

地域ICTクラブ名称	志田林三郎ICTクラブ
協議会等名称（代表団体名）	協議会名：志田林三郎ICTクラブ協議会(代表団体：オプティム、主な協議会構成員：多久市、価値創造プラットフォーム)
実施地域	佐賀県多久市・佐賀市
実証概要	AI・IoT・Robotの活用により、豊かな産業、安全安心で便利な暮らしの実現に向け、産学官がタッグを組んで様々な機器・ソフトウェアが生み出している。この、第4次産業革命のもたらす効果を個人・地域が享受できるよう、ICTの利活用に向けた教育に取り組む。この効果をより大きくし、より発展した社会を作り出す子供たちを育てるために、その基礎であるプログラミング教育を行うとともに、保護者や周囲がその重要性を理解し、能動的に取り組むよう啓蒙活動を行う。本協議会構成員のもつ資産をフル活用し、ICT社会にふさわしい“心技体”を楽しく身に付け、継続する事業を行います。

## 取組のポイント！

- ①【継続性】 オプティムでアルバイトを行う佐賀大学・院生が、コンテンツの作成から講義運営まで実施
- ②【効果性】 プログラミングだけでなく、ITが私たちの生活や産業にどのように役に立つか、体験型で学ぶ
- ③【啓蒙性】 自分の力で創ったプログラミング作品を、自分の身体よりも大きなスクリーンに投影し、友達と父兄に向けてプレゼン

## 取組の様子

①コンテンツの設計・作成を行う学生(メンター)



②遠隔作業支援ソリューションを体験する生徒



③自身の作品を立派にプレゼンする生徒



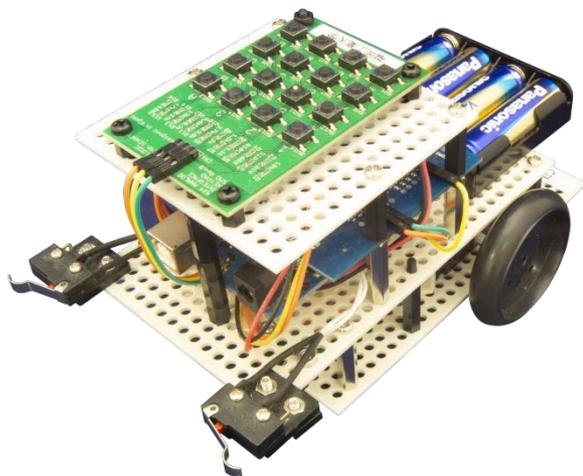
地域ICTクラブ名称	島原ICTクラブ
協議会等名称(代表団体名)	協議会名: 島原地域ICTクラブ推進協議会 (代表団体: 株式会社 ケーブルテレビジョン島原、主な協議会構成員: 島原市、福岡工業大学、島原ソフトウェア株式会社、CA Tech Kids)
実施地域	長崎県島原市
実証概要	産学官の協議会により、地域の小学生のICTクラブ活動をサポート。独自のロボット教材を使い、地域住民や世代間だけでなく、都市部理工系大学生や他地域の障害者とのつながり形成を含んだ活動を行う。

## 取組のポイント!

- ① 晴眼盲弱を区別しない新しいロボット教材を使用 ~目に障害のある子どもたちとともに学べる教材を利用
- ② 産学官協働の取組、特に地域IT企業と都市部大学・都市部プログラミング教室のノウハウを融合
- ③ PC不要の陳腐化しにくいアンプラグド教材で持続的な活動を実施、地域住民のICTへの関心を高める

## 取組の様子

使用教材: KOROBO SP(コロボスペシャル)



第1回活動のようす



会員募集チラシ

地域ICTクラブ名称	徳之島地域ICTクラブ、霧島地域ICTクラブ
協議会等名称(代表団体名)	協議会名: 鹿児島地域ICTクラブ推進協議会 (代表団体: ライフイズテック株式会社、主な協議会構成員: 株式会社CA Tech Kids、徳之島町、霧島市)
実施地域	鹿児島県徳之島町、霧島市
実証概要	<p>【事業のポイント】 離島と本土の連携を生かした地域ICTクラブの自走化・活性化モデルを検証</p> <p>【事業の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内の離島と本土で地域ICTクラブを設置し、各地でメンター育成、小中学生向け講座を並行実施。オンラインコミュニティの活用等により両クラブの活動を連携させる。</li> <li>学習テーマは「自らが住む地域を紹介するホームページ」の作成。プログラミング開発を通じて小中学生が地域課題について考え、地域住民とともに学ぶ活動機会を創出。</li> </ul>

## 取組のポイント！

- ① 離島と本土で並行して講座を実施・両コミュニティの連携
- ② 特別な準備が不要のオンライン教材でプログラミング導入から本格的なコーディングまでを地域で学ぶ
- ③ 自力学習・教え合いによる学びを実現する教材を用いることで、メンター育成の難易度を下げる。  
その結果、地元の住民や地域の高専生が地域で教え続ける継続モデルを確立する。

## 取組の様子

研修生同士で教え合う姿も  
(徳之島メンター研修)



開発の成果を全員で共有  
(徳之島メンター研修)



自ら開発を進める参加者  
(小中学生向け講座)

